

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100163		
法人名	社会福祉法人 徳誠福祉会		
事業所名	グループホームおきだて		
所在地	青森市富田5丁目7番21号		
自己評価作成日	令和3年8月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和3年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気作りを心掛けており、食器等は自宅から持ってきたものを使用している。敷地内に畑があり、野菜の収穫を入居者で行っている。季節毎に入居者と装飾作りを行い、リビングを装飾している。毎月色々な行事を企画しており、同法人のデイサービスや保育園と交流を行っている。現在はコロナ禍のため交流できていないが、今後は感染状況を確認しながら行っていく予定である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「家庭的で安心・安全な生活」「自立した生活」「人間として尊厳のある生活」というホーム独自の理念を作成しており、コロナの影響を受ける前は毎月行事を企画し、地域住民やデイサービス、保育園との交流を積極的に行っている。また、コロナ禍で外出制限しているが、敷地内の畑で職員と利用者が一緒に野菜等の成長や収穫を楽しむとともに、収穫した野菜は食事に取り入れて楽しんでいる。職員は普段から家庭的なケアを心掛けており、利用者が思い思いに生活することができるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的で安心・安全な生活」「自立した生活」「人間として尊厳のある生活」という理念を掲げ、職員間で共有・実践している。	「家庭的で安心・安全な生活」「自立した生活」「人間として尊厳のある生活」という独自の理念を作成している。管理者は理念を全職員に周知し、共有するために事務室の壁に貼っているほか、日々の業務で意識した取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から挨拶して交流を行っているほか、納涼祭等の行事に招待している。現在はコロナ禍のため交流する機会が減少している。	現在はコロナ禍の影響により交流できていない状況であるが、昨年は同法人のデイサービス利用者と敬老会を行ったり、保育園児と行事を通して交流を行う等していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、地域住民へ認知症の理解を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議で入居者の状況や活動内容について話し合い、情報交換を行っている。	運営推進会議は2か月に1回開催しているが、今年度はコロナ禍のため利用者の参加を控えたり、職員の参加を減らして行っている。会議で出された意見等は運営に生かすように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議議事録の提出や毎月の待機者の報告等、市役所と連携を図っている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員が毎回参加しており、アドバイスをいただいている。また、運営推進会議議事録の提出や毎月の待機者の報告等、市役所と連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、入居者への対応が身体拘束に該当しないか話し合い、議事録を作成して共有し、防止に努めている。	身体拘束委員会を設置している。身体拘束については声掛け等も含めて身体拘束は行わないという姿勢で日々のケアを提供している。外出傾向の利用者には職員が寄り添って支援しているほか、無断外出に備え、近隣住民から協力を得られるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に施設内研修を行い、職員間で虐待防止について理解をし、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、報告書で情報共有を行っている。また、勉強会を開催して発表することで学ぶ機会を設けるとともに、実践で活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は、家族等に来所もしくは訪問して説明を行い、納得していただこうで行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に目安箱を設置し、入居者や家族から意見を収集している。また、支払いの際に家族の意見を聞き、反映させている。	管理者や職員は、利用者が意見や苦情等を出しやすいよう表情や仕草の観察をしたり、声掛けを工夫している。また、ホームの玄関には苦情受付箱を設置している。毎月1回、ホームだよりを家族に送付し、利用者の暮らしぶりや健康状態を報告し、家族から意見等をいただいている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と面談を行い、いつでも相談等をしやすい体制としている。職員から出た意見は、反映するようにしている。	月1回行っている職員会議やユニット会議を通して職員の意見を聞く機会を設けており、職員から出された意見等については検討し、運営等に反映している。また、職員異動時には、利用者に影響がでないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員等の勤務状況を把握し、楽しく働けるように職場環境を整備している。不備がある場合は可能な限り対応するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の状況を把握し、興味のあることや伸ばしたい分野の研修があれば参加してもらうようしている。現在はコロナ禍のため、参加を見送ることがあるが、最新の情報を取り入れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域のグループホーム部会や法人内の事業所の多職種の職員との交流の機会をつくり、情報の提供等を行う取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言葉使いや態度に配慮し、入居者が話しやすい環境作りにも努め、気持ちを引き出すことに繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を傾聴し、気持ちを引き出せる会話の場を作るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族等が必要とするサービスを提供しつつ、ケース記録や申し送り等を行うことで適切な支援が行えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは自身でやってもらいつつ、職員や他入居者と一緒に作業することで、支え合う関係作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族は、入居者にとって支えになる存在であることを念頭に置き、可能な範囲で家族に協力を仰ぎながら、共に支援ができるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と相談しながら、友人の面会等についても受け入れできるよう支援している。現在はコロナ禍のため自粛している。	利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所を把握している。現在はコロナ禍のため面会ができない状況であるが、手紙や電話での交流を支援しており、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの習慣や環境に配慮しながら、入居者同士の関係作りが円滑に進むように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居や入院の際は、他施設や病院に情報提供をし、入居者や家族の支援に努め、これまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との会話を全職員で情報共有することで思いや意向を把握し、支援に努めている。	職員は、日々の生活の会話や行動の中から利用者の思いや希望、意向等を把握するようにしている。また、利用者の意向等が十分把握できない場合は、他職員や家族から情報を得る等して、意向を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者とのコミュニケーションやアセスメントのほか、家族からの情報を職員間で共有し、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の状態を把握し、申し送りや会議等で職員間の情報共有ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りやユニット会議で、入居者の現状を話し合い、随時見直しを行っており、現状に合った介護計画を作成している。	介護計画は、各利用者の記録担当者が気づいたこと等を参考に利用者の意見を聞いて作成している。ヒアリングが困難な利用者には、家族等から意見を聞いて介護計画を作成するようにしている。また、介護計画は6か月に1回見直しているが、利用者の心身の状態に変化があった場合や家族の希望等があった場合は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に日々の暮らしの様子や身体状況等を記録し、申し送りやユニット会議を通して情報共有を行っている。変化に対応し、ケアの方法や介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況・ニーズ等を把握し、できる範囲で支援するよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため、地域の方々との交流は自粛している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族の希望の医療機関を受診できるように支援している。かかりつけ医とは状況の説明をする等、相談連携を行っている。	これまでの受診状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう支援している。また、受診内容や受診結果についても家族や医療機関と共有を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で入居者の状況観察を行い、看護師と連携がとれるようにしている。変化時には、適切な処置を行えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報共有をしっかりと行い、入退院時の体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応について、ホームでの対応を検討している。	重度化や急変時の対応等については、書面で事業所の方針を明確にしている。また、日常的な健康管理や急変時の対応について利用者や家族、主治医と話し合い、意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や急変時の対応を施設内研修として行っている。緊急時対応マニュアルを作成し、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、災害時の対策を学ぶ機会を設けている。訓練時は、町内会の方々に協力をお願いしている。	年2回、夜間想定避難訓練と水害想定避難訓練を行っている。具体的な避難訓練誘導を行っており、地域住民から協力を得られるように働きかけている。また、災害時に備えて食糧・飲料水等を3日分備蓄しているほか、発電機も用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の言動を否定しないように声掛けし、対応している。また、排泄誘導時の対応にも注意をしている。	職員は利用者の尊厳を大切にしており、利用者の言動を否定や拒否せずに、話を聞き入れる態度で接している。また、入浴や排泄時には、羞恥心に配慮するとともに、プライバシーや守秘義務にも十分配慮して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で興味や希望等を聞き出し、可能な限り対応できるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のリズムを大切に、一人ひとりに合った時間の使い方をできるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	通院時等の外出するときは、一緒に洋服を選んで。また、服装を鏡に映して入居者の意見を取り入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	摂取形態を看護師に相談しながら、安心して楽しんで食事を摂れるように支援している。	献立は利用者の好き嫌いや摂取形態に十分配慮し、安心して食事ができるようにしている。また、食事中は利用者が楽しく食事の時間を過ごせるよう会話をしながら、利用者の見守りとサポートを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給で拒否があったときは、何が飲みたいか聞いたり、水分量をこまめにチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行って入居者自身に歯磨きをしてもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中はトイレでの排泄を支援している。入居者の排泄パターン習慣をチェック表で把握し、声掛け等して自立に向けた支援を行っている。	職員は利用者の排泄パターン習慣をチェック表で把握し、声掛け等を行って自立に向けた支援を行っている。また、失禁時や排泄確認時には、さりげなく声掛けをして、トイレや居室へ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操をしたり、こまめに水分補給を行っている。排泄チェック表の排便確認も行って確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴前の健康状態を確認している。入居者の希望に沿った状態で入浴できるように支援している。	入浴は、利用者の希望を受け入れるとともに、家族から入浴習慣や好きなお湯の温度等を聞いて支援している。また、入浴を拒否する利用者には、無理強いすることなく、ゆっくりと声掛けして安心して入浴を楽しめるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体操やレクリエーション等で活動時間を増して安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容を整理し、必要時に確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味を把握し、レクリエーションや作業に取り入れ、楽しみや役割を持って過ごしていただくようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出は控えている。コロナが終息したら、外出行事を多く取り入れていくことを考えている。	現在はコロナのため希望通り外出できる環境ではないが、以前は利用者との会話や家族等から情報収集し、利用者の健康状態や気分等に配慮して外出支援を行っていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の能力に応じて金銭管理をしている。入居者や家族に相談しながら買い物や職員による買い物代行をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者や家族の希望に応じて、いつでも電話をかけたり、手紙のやり取りができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、音や明かり、温度、湿度等を管理するほか、季節感のある装飾を行い、入居者が心地よく過ごせるように支援している。	共用空間には木製のテーブルやイスを配置しており、家庭的な雰囲気となっている。また、職員の声や音、温湿度も適切に管理しているほか、ホーム内には季節を感じることができる装飾を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごしたり、仲良しの入居者と過ごせるように希望に応じて場所の移動や席の変更を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者や家族と相談しながら家具を配置したり、なじみの物を置いて、心地よく過ごせるように支援している。	居室には、入居前から使用していたテレビや家族の写真等を飾っている。また、持ち込みの少ない利用者には手作りの壁飾り等を飾る等、職員と一緒に居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの状態を把握し、わかりやすい目印を設置したり、危険なものを置かないようにし、安全で自立した生活が送れるようにしている。		